

四国巡り一人旅（高知編Ⅱ） 連載第11回

3区 ときわ会 会計 保科紀一

13日目 6時起床、今日は昨日とうって変り 雲一つない快晴だ。歩くのには、もってこいの天気です。7時より朝食、食堂へ降りて行くと、けっこうな人がいるではないですか。隅のテーブルに着き「和食」を頼む、マママの食事でした。

食後、7時40分スタート。駅前の通りを東に向かい、どこかで右に折れるはず、適当なところで右折したら、1つ早く曲がってしまったらしく職業安定所のわきに出てしまった。マア左に行けば目的地に着くだろう、しばらく歩くと、大きな橋が現れ、正解でした。青柳橋です、この橋を渡りすぐに左に曲がればよいはず。と 思ったら、寺は山の上、この山は五台山といいます。

坂道を登ると、遍路道らしい狭い階段がある、登って行くと展望台に出た。この展望台のすぐ下が「第31番札所 竹林寺」です。境内に入ったら、ここは裏門でした。とりあえずお参りを済ませます。この寺は、よきこい節で有名な、はりまや橋でかんざしを買った、坊さんが居た寺だそうです。

さて、次の寺へ向かいます。次は「第32番札所 禅師峰寺」(ぜんじぶじ)です。ここからは、約6km やはり山の上にある寺です。途中までは、山道を歩き途中からは階段となり、遍路泣かせの登り道です。境内に入ると、右手に本堂、隣に太子堂が並んでいます。また境内からは太平洋をのぞむことができ、遠く桂浜を見ることができます。参拝を済ませ、次の寺へ向かいます。次は「第33番札所 雪蹊寺」(せっけいじ) 行き方は2とおあります。1つは、渡し船で行くか、もう1つは、浦戸大橋を渡る新しい道です。今回は渡し船を利用します。

寺を下り、6kmほど歩き渡し船の発着所に着きます。船を待っていたら、ベテラン(6回目)の遍路さんが話かけてきた、『君ネ、君がこの遍路を終わったら、きっとまた来たくなるよ』と言う。(嘘だろう！コンナつらい思いをして、また着たくなるわけがネーヨ)と、内心思った。が 今考えると、遍路の言ったことは正しかった。

船は10分くらいで、対岸に着く。そこからは、1.5kmほど歩くと雪蹊寺となります。この寺は町中にあり、本尊は薬師如来で運慶作と言われていて、この寺も別名「運慶寺」とも言われているそうです。

今回はここまでとさせていただきます。宿は寺のすぐ前にあります。それでは、次回まで、**お元気で!**